

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320128

研究課題名（和文）

弥生・古墳時代における太平洋ルートの文物交流と地域間関係の研究

研究課題名（英文）

The Pacific Route in the Yayoi and Kofun Periods- the cultural exchanges and the regional relations

研究代表者

清家 章 (SEIKE AKIRA)

高知大学・教育研究部人文社会科学系・教授

研究者番号 40303995

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：太平洋、弥生時代、古墳時代、交流

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、瀬戸内・日本海に続く第3の交流ルートともいえる太平洋ルートをめぐる弥生・古墳時代の人・もの・情報の動きを考古学的に分析することにより、従来になかった地域視角から古墳時代の成立過程と地域関係を解明し、さらに日本古代史上における太平洋ルートの歴史的役割を実証的に提示することである。

具体的には日常の物資交換に代表されるような基盤的交流と地域間の勢力関係を含んだ政治的交流の二つのレベルにおいて資料を収集して分析を行い、とくに交流が政治的意味を増したと考えられる弥生後期から古墳時代における本ルートの役割を瀬戸内・日本海ルートと比較しつつ明らかにすること。以上が、本研究の概要である。

1 年目には古墳の発掘調査を含めた資料の収集を中心として行い、2 年目以降は資料収集を継続しつつ分析に比重を移す計画であった。

2. 研究の進捗状況

(1) 古墳の調査

太平洋沿岸交流を調査するため、交通の要

所にあつて、地域間交流の具体像を示す南四国の古墳の内容を明らかにする必要があつた。そこで香美市大元神社古墳、高知市朝倉古墳の調査を計画し、実施した。前者に関しては調査報告書もすでに刊行し、後者も詳細な概要報告書を発行している。

(2) 資料の収集

横穴式石室、鏡・大型青銅器・刀剣などの威信財、太平洋沿岸交流にかかわる土器・石器資料の収集について重点地域を決めて行う計画であつた。それぞれの担当の研究者が資料を収集している。また、資料保管機関や遺跡の踏査も行って研究資料の収集に努めている。もともと量的に乏しい資料を除いて、相対的に順調に進んでいる。横穴式石室にかんしては収集した図面を資料集として公開も行っている。

(3) 分析の進行

弥生時代前期の南四国を中心とした交流研究を土器と石器から分析を行い、弥生後期から古墳前期については大型青銅器・前期古墳の分布状況から、古墳時代後期については横穴式石室や装飾大刀などから分析を進めている。また九州と四国の交流研究では瀬戸内の重要性が再認識され、太平洋沿岸交流との比較が行われている。東海以降も古墳・武器類を中心に分析が進められた。

(4) 研究の総合化・連絡

本研究は研究代表1名・分担者5名・協力者1名（2007年度に1名追加して現在2名）の体制で研究を進行している。各研究者の研究成果を共有するべく、学会・研究会で出会う度に意見交換をすることはもちろん、毎年1回は研究班全員で研究成果の確認を高知で行い、研究の総合化を図っている。またメー

ル等を用いて研究進行のあり方についても綿密に連絡を取っている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 当初の研究計画の通り、大元神社古墳・朝倉古墳の調査を実施し、報告書・概要報告書もすでに刊行している。迅速な調査成果の公表という点では当初の計画以上の進行と評価できる。

資料収集も、もともと資料数の少ないものを除いては順調である。

分析にかんしては、瀬戸内ルート的重要性が再認識されつつ、南四国を中心とした太平洋ルートは通時的にではなく、その時々状況に応じて一時的に重要性が高まるとの理解が研究グループで進みつつあり、その背景についても研究が進んでいる。研究成果も公開しつつある。こうした分析も計画通りに進行している。

以上のことを総合して、おおむね順調に進展との判断をした。

4. 今後の研究の推進方策

上記の通り研究は順調に進行している。2009年度は研究の最終年度であるので、研究をこのまま遂行して、研究成果報告書をまとめる。また、研究が進むにつれ、太平洋という外海の交流と有明海などの内海における交流との比較など新たな研究視点も浮上してきている。太平洋沿岸交流の特質を明らかにするため積極的に取り組み、研究成果報告書に盛り込めるよう努力したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11件)

1. 福永伸哉 「青銅鏡の政治萌芽」『弥生時代の考古学2 儀礼と権力』pp.112-126 2008年 査読無し

2. 橋本達也 「岡崎 18 号墳出土鉄製品と肝属平野周辺地をめぐる広域交流」『鹿児島大学総合博物館研究報告No.3 大隅串良岡崎古墳群の研究』 pp.47-58 2008年

3. 清家 章 「高知平野における大型後期古墳の動向」『考古学論究—小笠原好彦先生退任記念論集—』 pp.447-464 2007年 査読無し

4. 福永伸哉 「前方後円墳成立期の東四国と畿内」『鳴門史学』第21集 pp.1-16 2007年 査読有り

〔学会発表〕(計5件)

1. 清家 章 「高知市朝倉古墳の調査成果」考古学研究会岡山例会 2009年1月10日 岡山大学

〔図書〕(計1件)

1. 杉井健 (共編著) 上天草市『上天草市いにしへの暮らしと古墳』2007年 pp.123-345